MARUMO LIGHTING NEWS

1月1日発行〈年4回発行〉
46—1号■No.11

明けましておめでとうございます。
“今年こそは……”と再び思える時がやって来ました。新しい年に新らたに繰り広げられる演劇への夢と希望。作者も役者も演出家も、ライトもコスチュームも夫々の思考をふたたび原点に戻して、より一層の飛躍のための充実した日々の連続であるよう願ってやみません。今年もまた、マルモ・ライティング・ニュースを御愛読下さいますよう。

写真はテアトロ提供—「アンネの日記」

ステージ係の仕事について〈その２〉

サンケイホール
岩品　健介

さて、ゼラチン番号と色との関係を呑みこんだ頃になると、諸君は、スポットの種類と、その特性を知り、適当に使いわけることを知るようになっています。

すなわち、凸レンズを使用したＣ型や　ＴＨ型、Ｔ－Ｉ型（ベビー・スポット）の束光光線用と、　ＭＦ型に代表されるフレネルレンズを使用した溢光光線用との二つの異なる性質を利用して。

暗転、板付、その上からサス一台Ｆ・Ｉの場合は前者を、次いで動き出し上下より大勢出で舞台Ｆ・Ｉの場合は、地明り用、主として後者のスポット群が一斉に点いて明るくなるように、その時々に応じたスポットの使い方ができるようになったのです。これも、「手びき」に詳しく説明してあるので、要らざる重複はさけたいと思います。

そこで、私が言いたいことは、すすんで綱元にとんでゆくことです。チーフ・オペレーターは、文字通り、プランナー代行の総指揮者ですから、舞台全体の仕事をてきぱきとすすめてゆかなければなりませんが、その手足となって、動くことが、主に、ステージ係の、それも初心者諸君なのです。

綱元操作で必ず守らなければならない事は、所定の位置にトバし、また、下ろし、途中で止めるとき、綱を三回よじって、ストッパーを確実に締めることです。バランスのあまりよくとれていない場合は、しづでバランスをとるのが至当ですが、そうまでしなくてもよい場合は、二重に綱をよじてから、静かに下ろしたりとばしたりしなければなりません。

不用意に手袋もはめずに上げ下ろしをすれば、手の皮が何枚あっても足りないし、第一、加速度がついて、エリヤ・バトンや、ボーダーは、大きな事故を引起します。

また、少し重めの場合は、足の甲を綱元の下の基礎パイプにもってゆき、足と、体重と、腕の力で上げ下ろしをすると、手のみの力より、一層強い力が発揮されます。ついでながら、舞台で働く人間が、皮靴の上等なものを履いていると、このようなときに、足を有効に使うことができないでしょう。

今流にいうと、カッコいいのは結構だけれど

も、ズボンが細すぎて、しゃがめなかったり、フライ・ブリッヂに上るのにためらうようでは、舞台人とはいえないわけです。

まして、芝居や、日舞では、ランマ吊あり、所作あり、で、いちいち靴を脱いではいられないから、やはり、草履が一番適しているのでしょう。

また、綱元の係は、ボーダー乃至、サス・バッテンを適正な位置で止めなければなりません。それは、大道具係の定めた一文字のタッパの高さに揃えて、サス、あるいはボーダーが見切れてはいけないし、また、高すぎて、かくれてしまって、一文字で有効な光をさえぎってしまってまづいのです。

つまり、適正な位置とは　照明とは存在を照らす……″という基本的な定義を万足するように、ボーダーにはボーダーの、サスペンションにはサスペンション・スポットの、与えられた役割を、充分に果すことができるような位置に定めることが大切です。

明りがよく当っていても、ボーダーや、サス・バッテンが見切れていては、舞台の美はそこなわれます。

一時、ブレヒトの異化作用から転化して、さかんに、照明器具及び舞台設備を観客にみせることが流行ったが、これは一般的ではなく、あくまで条件付の演出効果を狙ってのことでした。

次にステージ係は、上下にわかれて、スポットを所定の位置におき、調光係との間できめられた回路から、スポットに、キャプタイヤ・コードで配線しなければなりません。

これは、必ず、キャプタイヤ・コードが望ましい、というのは、舞台は、大道具の引枠や、切り出し等の出し入れにキャプタイヤ・コードでなければ、損耗がはげしく、かつ、危険だからです。

別に、大道具の出し入れがなくとも、出演者の靴で踏まれるだけでも、他のコードでは危険さは変わりありません。

常に、ステージで使用するコードは、キャプタイヤ・コードでありたいものです。そして、大道具の引枠の通るところは、特に、ベニヤ板等の板で、その上を蔽う方が、引枠も通りやすく、キャプタイヤ・コードといえども、いたまずに済むのです。

それから、肝心なことは、許容量に見合った配線をすることです。少しくらいはいいだろうという考え方が、長い間に、コードも痛めます。また、ポケット番号をよく打合わせて置かないと、調光室との連絡の不備が、フューズをとばさせ、同一回路であったために、不要のスポットも点いてしまうことにもなるのです。その上、フロア・ポケットから先の舞台機構上の設備部分の配線部の耐用度が悪くなってゆくのです。

このことは、ステージ・スポットのみならず、サスペンション・スポットについてもいえるのです。

調光係とのとりきめの上、あらかじめ定めた場所から採らなければ、オーバー・ロードの危険があるからです。そのためにも、仕込み図にポケット番号を記入してから、仕込みの作業に移るのでしょう。

ステージ・スポットを、正しい場所に設置し終えたら、始めに使う色を、スポットに入れておく。二ベル（開演ベル）がなって、あわてて色を入れにゆくようでは、トチるもとになります。開幕前のゆとりをもつためにも、先々に、できるところはすべて用意を怠らないようにするべきでしょう。

次に、出し物があれば、出し物の配線とテスト、アンプ電源や、譜面灯の灯入があれば、それも忘れずにやってほしい。

むろん、L・Hの配線テストは大切です。L・Hは、大道具を飾るときに、シギ等で、ゼラチンを破る場合もあるし、途中で抜けた時に、照明係でない人が、よくこれを黙って結いで、間違っている事が多い。シルエット開きで、ゼラチンが破れていたら、途中で結線が違っていたら、仕込みの時はよかった、では、済まされない大きな失態となるでしょう。

その他、エフェクト類のステージ設置があれば、入念に、開幕前にもう一度テストをするのです。エフェクト類の失敗は、得てして、主催者側の注文の場合が多いもので、単なるステージ・スポットのトチリでは済まされなくなるからです。嵐で雲が流れる時に雲が流れず、月が出る時に月が出ず、幻灯の画が逆に映ったり、こういうことはよくありがちなトチリなのです。

そして、もう一度、ステージ・コードを整理

して、一目瞭然に、どこから採ったか解るように、しかも、出演者の出入りの邪魔にならないように、するのです。

とぐろを巻いたステージ・コードはみっともないし、もし、事故があって、応急処置を早くとらねばならない時に、何番からとったコードなのか判らないようでは、安全を期する上からも、トチリを未然に防ぐ上からも、好ましくないからです。

まして舞台の中に出しているコードは、二階の客が観た場合、未整理の状態では、プロとして、恥しいと思わねばなりません。

もし、舞台前に配線しなければならない時は、なるべく邪魔にならないように、フット・ライトから舞台の前縁に沿わせて、ガチ等でとめて、直線的に、見た目におかしくないように、キレイに配線しなければならないでしょのう。つまり、あくまで、舞台の仕込みが舞台芸術をそこなわないように注意するのです。

しかし、いくらキレイに張ってあっても、出演者が、舞台に這わせたコードに足をつまづきでもしたら、これも、舞台芸術を、そこなわせることになるでしょう。特に、バレエ等では、決して、許されることではないのべす。

次に、ステージ・スポットは、客席から見切れないようにします。所定の位置の含む意味の中には、安全と、純粋に舞台芸術上の要求を満たすための条件をそなえた位置であることと、先程ふれた、舞台芸術をそこなわせないようにする位置であることの、三つがあります。

プランナーの意図する所にスポットの光を当てるために、客席に見切れてはならず、また、よく、舞台の安全を無視して、割どんの側に近づけすぎる人をみますが、これは、いくら防炎加工をしていても、割どんを焦がしてしまう結果になります。

その上、舞台袖で煙草を喫っている人がいると、煙が出ても、まさか割どんからだとは思わないので、大事に至ることになるのです。

調光室より見ていて、舞台袖で煙草を喫っている人を注意しようと、ステージに行ってみると、煙草の煙でなく、割どんがくすんでいるようなことが、あるかも知れません。これでは、「泥棒を、捕らえてみれば我が子なり」という川柳と同じではありませんか。

「手びき」にも書いてあるように、舞台での喫煙は絶対にいけません。安全の上からも、舞台の自然をそこねる上からも、絶対に煙草を喫ってはならないし、ステージ係は、これを注意して止めさせるべき任務をもっているのです。

前にも述べたように、光源がはっきり見えることは、特殊な演出効果を除いて、絶対に舞台のルールに反するからです。

それから、サス・スポットを吊った時、ゼラチン・フィルターが落ちないように、バインド線で止めるようにすることです。金のさし枠でも、頭に落ちてくれば、出演者は迷惑する。それに、少しづれても、＃Wがもれて、よかろう筈はないでしょう。

また、色をはずして、＃Wにした、スポットについているバインド線を、垂らしっぱなしにしておくのは、よくないことです。折角、スポットが見切れないように、バトンをとばしていても、そのバインド線だけが、だらしなく垂れ下がったまま白く光っていることは、舞台効果を半減し、みっともないことおびただしい限りです。

時には、大道具の吊物にぶつかって、サス・スポットのコードが垂れ下がることがありますが、同様に、やり切れない思いがします。

不可抗力な出来事は、致し方ありませんが、少しでも、注意を怠ったがための、不備は、ステージ係のミスになるのです。もう一つ、サンケイ・ホールでは、鎖をつけて、万一スポットが落ちないように、そなえていますが、これも、必ず鎖をつけたかどうか確めて下さい。もし、大道具の吊物にぶつかって、鋳鉄のハンガーが折れでもしたら、鎖のおかげで大事に至らずに済むことにもなるのですから。

舞台の仕事は、純粋に、照明の仕事だけが仕事ではないのです。あらゆる場合に起こり得ると予想される危険に対して、安全を期するだけの考慮を容れた仕込みが要求されるのです。

電飾等の灯入の電気工事、ランマ吊り等の正しい吊り方等々、「手びき」の通りに、完全な仕事をして欲しいものです。

――――――――――――以下次号へ

――― 初歩の舞台照明の手びき ―――
中部舞台テレビ照明家協会発行
頒価　1,100円

舞台照明と電気の基礎知識—5

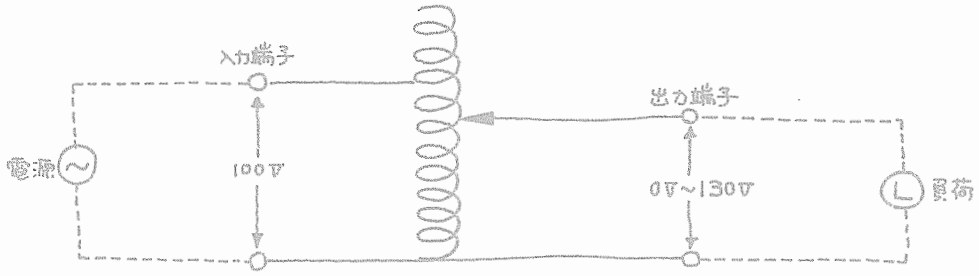
やさしい調光器の知識
〈スライドトランス(スライダック)の使い方〉

丸幾電機㈱技術部
樋口　七生

スライドトランスは一個の巻線を一次及び二次に共用する単巻変圧器の一種で、二次出力に接続されたカーボンブラシが巻線上を摺動して電圧を調整するもので、手動により二次出力電圧を、任意の電圧値（０V～130V）に保つ場合に使用される電圧調整器です。

スライド・トランスの内部結線は下図の様になっており、入力端子に電源(AC100V)を接続しますと、電圧調整ツマミを回転させる事により出力端子へ０V～130V迄の電圧が取り出せます。

例えば出力端子へ電球を接続しますと、電圧調整ツマミの操作により、電球に加わる電圧が変化し、電球は明るくなったり暗くなったりします。いわゆる、調光が行える訳です。



使用方法

(1)先ず最初にスライドトランスの電圧調整ツマミを零(０)目盛に合せます(左へ一杯に回す)

(2)出力端子（ＯＵＴ・ＰＵＴ）のツマミを緩めて調光したいスポットライト等を接続します。

(3)入力端子(IN・PUT) のツマミを緩めて電源（ＡＣ100Ｖ）を接続します。

(4)以上の配線が終ったら、電圧調整ツマミを除々に右に回して行きます。
出力端子に接続された負荷（スポットライト等）は除々に明るくなって行きます。逆に左へ回すと暗くなり、ツマミの操作により明暗が自由に変化できます。

使用上の注意

(1)出力端子に接続する負荷の容量がスライドトランスの定格容量をオーバーしない様にして下さい。負荷の容量の方が大きい場合は、スライド・トランスが加熱し焼損します。

(2)連続長時間使用する場合は、定格容量より下まわる容量の負荷を使用して下さい。
定格容量一杯の負荷を長時間使用すると、スライドトランスが加熱します。

(3)電圧調整ツマミの目盛はＯＶから 130 Ｖ迄有りますが100Ｖ以上には回さないで下さい。
100Ｖ以上にすると、負荷(電球)は明るくはなりますが、100Ｖ用に設計された電球ですので、電球の寿命が著しく低下し、又フィラメントが焼損する恐れが有ります。

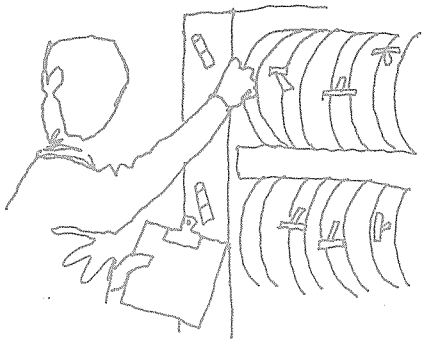
(4)出力端子に接続された負荷（電球）は、ツマミの調整により任意の出力電圧を得ますが、ある電圧値（ある明るさ）で止めて置く場合は、なるべく、100 Ｖ位近で止める様にして下さい。
低い電圧値で止めても構わないのですが、出力電圧が低くなる程スライドトランス内での発熱が多くなり加熱されます。

(5)入力が定格電圧（ＡＣ100Ｖ)でない場合は出力電圧は、目盛板の数値と多少異なることが有ります。

(6)スライド・トランス内部のカーボンブラシが著しく磨耗した場合、又は万一衝撃等で折損した場合は必ず補修してから使用して下さい。

彩光

一裏方の日々のあれこれ



柘植貞輝

舞台照明というと、必ず明滅する赤青黄などのスポットライトの事だと思われ、或はミラボールを回したり、オーロラマシンの光芒の回転することだぐらいに思われています。

誰でも自分の仕事に年季が入れば入るほど、その仕事に対する世間の関心の薄さに幻滅を感じたり、憤りを感じたりするものだと判っていながら、やはり自分の仕事を世間に理解してもらいたい切なる願望に、責め嘖（さいな）まれるものです。

だからといって、目立つ、俗受けのする、派手なことばかりやっても、最終的には反って逆効果になって、自己満足だけになってしまうことが多いわけです。また、他の照明家が思いついた技巧を、意味なく安易に借用することをしばしば見かけますが、特殊技巧を必然性のないのに、あの時面白かったから、というだけで、皮相な借用をするのも全くナンセンスなことです。

こんな借用をこの頃はたいへんよく見かけます。流行歌手のステージショーのほとんどに、現存の照明効果器は常に総動員されて、わけもなく投映され、幕切れにはミラボールが回るか、オーロラマシンが回転するかしないと、ショーが終りになったと観客は思わなくなってしまったようです。演出家もこれに頼るし、照明家もフルコースのデザートぐらいに思うようになってしまった感じです。

最後に胡椒でもぶちまけて、目玉が飛び出るくらいのクシャミでもするような、スカットした工夫、技巧がないものでしょうか。

照明という仕事が、いや舞台裏の仕事のあれもこれもが、その時その時かなりの人数の臨時アルバイトで、お茶を濁すようなことが目に付く程、舞台の仕事数が多くなって来たことは、照明家だけでなく、舞台裏に働く皆にとって喜ばしいことだとばかりは思っていられないような気がします。

仕事を大切にしたいと思う感懐は、あながち年配の者だけではないと信じているのですが、仕事を大切に思ったり、仕事を愛していないで、ただ現在のカセギだけと思っている人の数の比率が高まると、仕事の内容が低下するのは当然と思いますから、仕事を大切に思い、仕事を愛している人の仕事量は一そう濃度を高めなければならないと思います。

この頃思うのですが、国立劇場の中で歌舞伎俳優養成が行われています。ここで一つ舞台技術者の養成だってしてくれたらいいのに、短大ぐらいの内容でやってくれないかなあと。

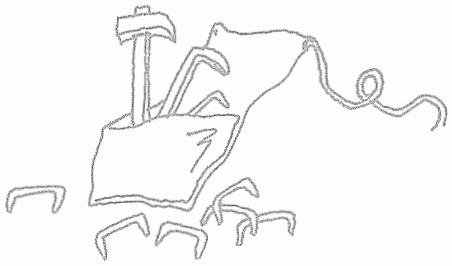
お役所に頼るというわけでもないが、危険がいっぱいの舞台で、危険をいっぱい扱う舞台技術者が野放しになっているみたいな感じがしてなりません。

未だに百科辞典に、裏方とは舞台に働く薄給の下級労働者のことである。——などと記されているのを見ると、劇界に名を知られた人さえ辞典にこのように書くのですから、世間の目はやはりこれと大差のない見方をしているのだと思います。自分等では、存外芸術家のはしくれぐらいに思っているのですが。

勿論、秀れた芸術家としての照明家の輩出で、照明という仕事自体の認識のされ方は随分高まっています。こんな機運が今年7月に全国一本にまとめた「日本照明家協会」設立を成功させたのだと思います。私達にとっては念願がやっと叶ったところです。

「枠」

舞台装置家
内山千吉



私はある劇団の付属研究所で舞台美術の講義をすることが、短時間ではありますが長年続いております。年が新まり新研究生が入所して来ると、講師が誰でも言うように、〝演劇とは〟〝演劇芸術に於ける美術の役わりとは〟とあたかもお題目でもとなえるように話してしまいます。これは話の糸口としては当然なのですが、大へん嫌なことだと最近は特に感じるようになりました。

かって私達は、舞台芸術は総合芸術であり舞台装置にしろ舞台照明にしろ、その総合芸術を創る一つの要素である。と教えられて来ました。そしてそれをあまり疑うこともなく無意識のうちに根本理念のようにして仕事をして来ました。しかしその私達の先輩が作りだした実際と理論がお題目のみでなく、現実に私達の仕事に根づいているかといえば大いに疑問があるわけです。もともと演劇における総合の意味は物理的な要素を広い意味に於て含んでいるわけです。俳優の演技を頂点として舞台装置（大道具・小道具）舞台照明、舞台衣裳、音楽、効果等々とそれを作り出す人間関係のあり方まで含んでいるわけです。そしてこの各要素を含んだ演劇創造方法論は数多く文字の上には存在しているわけですがなかなか現実のレールの上には乗っかるものではありません。私はその理由の一つに「枠」を指摘したいのです。

私達のこの日本には長い演劇の歴史があります。そしてその歴史は良いものを沢山のこした、だが古くて悪いものも又残しています。

それは各要素それぞれの勝手な主張です。主張と言えば出しや張りに取れるかもしれませんが、この場合創造的に消極的なものも主張のうちに入ると思います。創造的消極性が個人の能力不足から出る場合はまだまだ理解も出来るのですが、これがある一つのセクションの事情に依って出て来ることに、どうにも我慢のならないものを感じることが多くあります。そしてそのセクションの事情が何時しか「枠」となり、枠のあり方にそって仕事に参加する形がとられるようになります。ここまで来るとこの枠をはずすことは殆んどありませんし他人の干渉をゆるさない物です。そして古い殻を再び冠ることになりますが、それでも芸術創造の一分子であり、総合芸術する一つの要素であることに変りはありません。

この事は、マルモ・ライティング・ニュースに書くことに依り舞台照明家がそうだと言っているのではありません。むしろ私自身もこれを読むあなた自身もそうではないかと思うのです。

＊彩光の投稿〆切は次号については1月末日です。

15万円で出来る舞台照明設備

舞台照明家
唐見沢 行京

15万円で出来る、最底の照明という事で、中学校程度の体育館等の仮設ステージで行なう文化祭の照明設備を考えてみました。

劇場用の照明設備は、大変高価であるが、この企画でも一応の劇場の設備を最少限にまとめて見ました。（劇場の照明設備の使用方法等は、日本照明家協会雑誌70′ 6月8月9月11月12月号に岩品氏が掲載されています、またこのプランは、最底の最底ですから、これで良いという訳でなく、次年度の予算で追加する事を希望します。）

たとえば、皆さんが10万円程度の予算ですと、まず1,000W用のCE型スポット2台、6尺のストリップライト3本に、小型フラットライト4台位だと思います。しかしこれでは、前明りばかり強くて、ホリゾントに陰が出て苦になるけれどしかたないという事で、あきらめている事と思います。

この企画ではそれをさけ、一応劇場の設備を基本に不備ながら整えてみました。

数少ない器具で効果を上げるために、舞台そのものに手を加える事も考えましょう。舞台の面積をなるべく広くするために、必要ならば張り出し舞台を付けましょう。

また、舞台の袖をなるべく広く取りましょう。そして袖幕を付けて客席よりステーヂスポット等が、見えないように工夫して下さい。

この企画により舞台の大きさは間口4間から5間位まで、奥行は3間半から張出し舞台の端から4間位まで、広すぎる場合は袖幕等で攻めて下さい。

また、天井までの距離が高すぎる時は、3間位までにかすみ幕等で調整して下さい。

I. 器具の種類と数

- 小型フラットライト8台、または、10台
- 500Wベビースポットライト〔SP〕 8台　またはうち6台フレンネルレンズ付スポットライト　ネ
- ストリップライト〔stu〕 6尺型2台または3尺型4台。

数は多い程よいのですが、予算の関係もあるでしょうから左側の数字を最底とします。

II. 器具の位置と設置方法

1. フロント〔Fr〕

a. 面ら明りとして使います、劇場で客席から見える明りです、劇場では、2階3階にあるサイドの照明室のことでフロントといいます。
客席の一番後ろにあるのが、センター〔Cent〕といいます。また、階上の客席の手すりの下についている明りが、バルコニー〔Bal〕といいます。天井（客席の）に有るのが、シーリング〔Ceil〕といい、この企画の場合はフロントとこのシーリングの合の子の位置になります。

b. 天井より竹竿を（もの干竿でけっこう）ロープでつりそれに小型スポットライト（500W）を結び付けます。

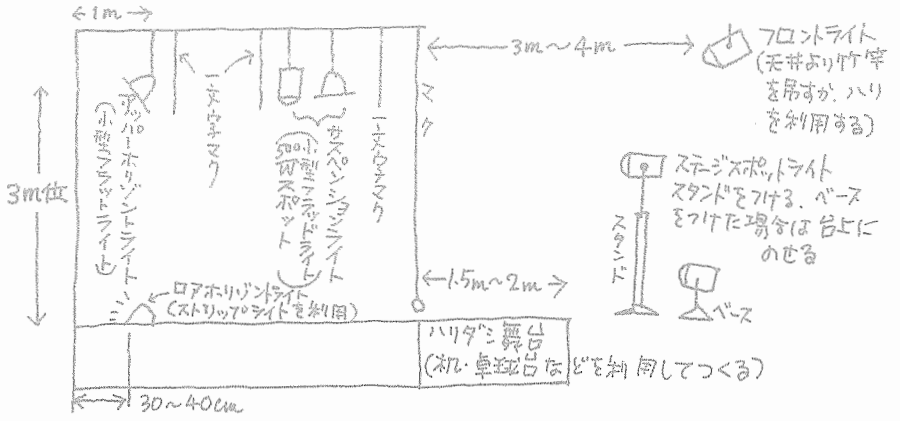
c. 上手に2台を並べ、中央に1台、下手に2台を並べます。

d. 上手のスポットライトは中央より下手一杯に光が当るようにしましょう。
ただし、ホリゾントに光が掛らないように（下の方が少しなら可）また、袖幕や一文字等の見切幕等に当らないよう、気を付けて下さい。

e. 下手のスポットも同じ要領です、光の位置を定める時は、手袋をはめる事。

f. 中央の1台は舞台の中央部センターマイクを置いて人物が立った時、全身に光が当るように定めて下さい。

g. 結線は、全部の器具が単独で使えるようにコード



を付けて下さい。コードは必ず綿コード又はキャップタイヤーコードを使って下さい。ビニールコードは、器具が熱を持ちますから、使わないで下さい、ビニールコードしかない時は、この企画は、不可能です。

h. ゼラチンは、上手下手中央寄へ＃78か＃77、外側へ＃35または＃45を、入れて下さい、中央の一台には＃79か＃64を入れます。

i. 上下のスポットライトは、フレンネルスポットライトならばなお効果的です。

（注）このライトの下には客席を作らぬこと、もし客席があれば、テープ等で仕切を作ってその中へは、人を入れないこと、そのために係を一人置く位の気を付かって下さい、また、岩品氏の指適通り必ずゼラチンシートは、針金かバインド線で止めること。

2．サスペンション〔Sus〕

a. 地明りといいます。劇場ではボーダーライトという器具を使います。　また、サスペンションライトとしてフラッドライト及び、スポットライトを、ボックスにセットします。

b. 小型フラットライトを5台（6台）フロントライトの要領で竹竿に上手2台下手2台中央1台（2台）にセットして天井より釣るします、この場合安全をくれずれも確認して下さい。

c. 光がホリゾントに当らないように調整して下さい。客席にこぼれるのも困ります。

d. 上下中のフラッドライトには、ブルー＃77を入れて下さい、内側の2台には明るい色＃44か＃45を入れて下さい、3台づつならば、なを効果的です

f. 結線は、全部の器具を単独に結ぎます。

3．タッチライト

a. 劇場では、タワー〔TOW〕トウメンター〔Tor〕ギャラリー〔Gal〕等いろいろあります、また、サスペンションにつるすこともあります、またボーダーライトに付けることもあります。

b. この場合は、サスに一諸にフラッドライトの両端に取り付けます。

c. 上手のスポットライトの光は、中央より下手よりに当るように流して下さい、下手は逆です。

d. 天井までの距離がない時は　＃00番のゼラチンペーパーを入れて下さい、フレンネルスポットライトならばなお効果的です、　上手に＃59下手に＃65を入れて下さい、また、ゼラチンが取り換えられる位置にセットできれば、好都合です。

e. 結線は、単独とします。

4．アッパーホリゾンライト〔UH〕

a. ホリゾントを染めるためのライトです、小型フラットライトを3台（4台）サスペンションライトの要領で、空バックに向ってセットします、この器具は、アッパーホリゾントライトとして開発されたものですから、好能率です、空バック一間に1灯の割り合であれば理想的です。

b. 距離があればある程光のむらが少なくなりますが効果は悪くなります。

5．ロアーホリゾントライト〔Lh〕

a. ホリゾントライトとして開発されたものもありますが、この場合はストリップライトで代えます。

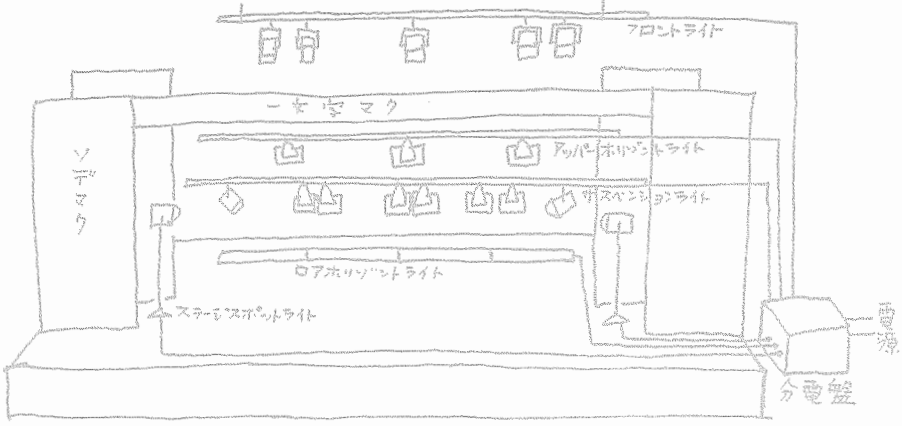
b. 結線は2回路とします、距離がない場合は下に板等を入れて上を向かせる様にして下さい。

c. ゼラチンペーパーは、＃45 ＃35.＃78等を用意して着し換えて使います。

6．ステージスポット〔Stage sp〕

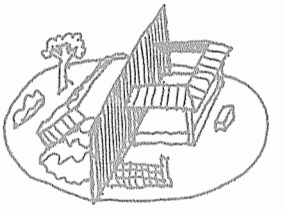
a. ステージスポットとは、タッチライトとして使います、スタンド付ベビースポットを使用します。

（注）ここに記載しました用語は、日本照明家協会の名称記号を使用しました。［　］内の記号は日本照明家協会の略号です。
詳しい使用方法操作の仕方等は、前号及び今号の岩品氏ステージ係の仕事を精読して下さい。
結線されたコードは、一個所に集めて下さい。
一回路づつ全部に　荷札で名称を付して下さい。
分電盤があれば、照明をする時に非常に便利です次号にその作り方と、この企画による、照明のプランを記載するようにします。



舞台用語について〈その4〉

柘植貞輝



㊺ 一杯飾り——いっぱいかざり

舞台ホリゾント一杯まで、舞台全部に飾り込んだ舞台装置を云う。

㊻ 二杯飾り——にはいかざり

廻り舞台を使って転換するときに用いられる飾り方で、舞台奥行中央を境に表へ一杯、裏へ一杯両面背中合せに飾り込んだ場合を云う。廻り舞台を3分して3場面を飾り込んだ場合を三杯飾りと云う。

㊼ 二重舞台——にじゅうぶたい

舞台床面より高い床が必要な時、処要の高さの脚の上に二重を組上げる。このような舞台飾りのときこれを二重舞台といい、脚（馬という）の高さは定式として常足、中足、高足、尺高等がある。

屋体の床、土手、丘、岩等の骨組はこれで、屋体の場合特に二重屋体と云う。

㊽ 平舞台——ひらぶたい

二重舞台に対して二重を飾らぬ舞台を平舞台と云い、舞台そのまゝに飾り込むものすべてが平舞台である。例えば、舞台そのまゝを家の床と見せて飾り込むものなどがある。

㊾ 八百屋飾り——やおやかざり

舞台に奥を高く、前を低く傾斜のついた飾り方をし、その上遠近法によって遠見の風景や、大広間などを飾る方法。八百屋の店先の商品台に似ているところから来た名。（開帳場）かいちょうばの別名。歌舞伎での八百屋飾りは俳優の演技する場所としてはほとんど使われず、単に舞台装置である。

㊿ 引道具——ひきどおぐ

大道具の転換法として、大道具を舞台の上手下手の袖に引き込む方法である。すなわち、二重（平台）の下に車をつけ、張物には必ずすべりがつけてある。

(61) 張　物——はりもの

大道具の基本ともなるべきもので、木材で枠組を作り、紙張り、布張り、あるいわベニヤ板を張って作り、必要な書割りをしてこれらを組合せ舞台装置を形成する。劇場などでは数種類の定尺物を備えているのが普通である。また、張物の両面が使えるようになっているものがある。これを「両面」又は「うらおもて」と云う。

(62) 書　割——かきわり

背景や張物に風景や家具、建築等を描かれたものを云う。遠近法を用い、影も書き込む。「書き割る」という動詞としてあらわすこともある。

(63) 切出し——きりだし

いわば、小さな張物である。色々な形体のものがある。例えば、立木、遠山、トーロー、また上から吊る雲、木の枝ぶりなどこれである。

(64) 滑　り——すべり

張物又は切出しの下部の両端に附ける小さな木片又は金物をいい、張物又は切出しを運ぶとき舞台床をすべらせて運ぶに便利にしている。但しすべりと床面との間にすき間が出来るから、道具を飾ったとき舞台奥の光線が漏れるから注意する必要がある。

(65) カットクロス——

切出しの一種でもある。布を切りぬいて、あるいわそれを網に張って吊り下げたものを云う。

(66) 平　目——ひらめ

張物や切出しのような、平面的なものを総称して云う。

劇場めぐり

福島県文化センター

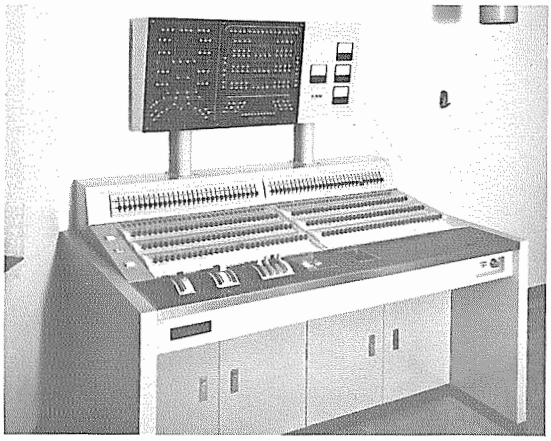
福島市春日町81－1
45年9月1日開場

太郎よ、みたまえ
あの緑深い信夫山のふもとに、すっくと立った白亜の殿堂を。
十二億円の巨費を投じ、県民一人々々の願いと期待をこめた福島県文化センターの威容だ。
みちのくに運ばれた香り高い芸術、教育の花が、いまここに開花し、世界の、日本の静かないぶきが聞こえる。
太郎よ、あの文化のシンボルに足を踏み入れてみようじゃないか。
頭上に輝くシャンデリアが、まばゆい中央ロビー。
一階、右手に大ホールが続く。ゆったりした千百平方㍍のマンモスホールは落ち着いたグレーの壁と赤い座席のコントラストがすばらしい。
ここでは二千人の観客の目を舞台にひきつける。現代の科学の粋をつくした七色の照明、音響効果がすばらしい。
チャイコフスキーが、ベートーベンが、そしてマダム・バタフライが歌舞伎が、郷土芸能が、自慢のせり上げ舞台と共に県民の耳目を奪う。
太郎よ、耳をすましたまえ。
ヒタヒタとせまる古（いにしえ）から現代までを再現した美の足音が、そして心も魂も、それに酔いしれた人々の興奮が、拍手が聞こえてくるじゃないか。
太郎よ、さあ友と語り合いたまえ。
真と美と永遠がお前の心を離さないのだと。

「福島民報より」

●舞台照明設備

SCR調光器	6kW×60台
プリセットフエーダー 3場面プリセット	180
負荷回路	192
総主幹SW	1500 A 3p
ボーダーライト	3列
サスペンションライト	4列
アッパーホリゾントライト	1列
ロアー 〃	1列
フットライト	1列
フロントサイドライト	32台
シーリングライト	22台
センタースポットライト	3台



技術コーナー　デイムパック（T－6分電盤）保守要綱

1．2K.W.調光器6台が内蔵されておりますが、トライアックに対する短絡電流保護はなされて居ませんので、負荷側にて短絡事故のあった場合はトライアックが導通状態になりっぱなしになり、調光が出来なくなります。
　此の場合は瞬間的ですので、回路の20Aヒューズ断よりも早くトライアックが導通してしまい、あとからヒューズが切れる形となります。
　短絡事故の場合はトライアックを取り替える以外になりません。

2．制御回路に定電圧回路が含まれて居りませんので、電源電圧の変動に依り絞り残しが出たり出なかったり現象が現れます。
工場出荷時はキッチリ100Vにて調整して、いくらか（フィラメントが赤まる程度）絞り残しが出る程度に調整して居ますが、電源電圧が100V以上の場合は絞り残しが大きくなり以下の場合は小さくなります。

　又電源からデイムパックまでの間にも相当の電圧降下が考えられますので、デイムパック負荷の軽重に依り（例えば1台だけを絞って居いて他の5本を調光した場合には、6本共0の時は絞り残しが出たり出なかったりします。
此れは電源よりデイムパックまでの電圧降下及び電源自身の電圧降下が変化して、デイムパックに掛る電圧が変動するためです。従って入力線は容量に充分な物を使用して、電圧降下を出来るだけ少なくして頂く事と、電源電圧に合せて絞り残しを再調整して頂ければ、好みの絞り残し位置で御使用なれます。調整法はパネルビスを外にパネルを外しますと、中にプリント板に小さなボリュームが6ヶ（各調光器に1ヶ）ツマミが上を向いて取り付けてありますので、此れを左右に少しづつ回して調整して下さい。
此の時フエーダーは0にしておくと調整しやすい様です。

（技術師　中沢金造）

“マルモ”で働きませんか

交錯するライト――そして
描き出される光と人間の
大スペクタクル――
活躍する数々の照明機器

丸茂電機は　大劇場のシステマチックな照明設備からアマチュア劇団・学校演劇の照明にいたるまで、創造活動と光の関係を追い求めて来ました。あなたのその才能をマルモと共にあすの演劇のために使ってみませんか。

職　　種　営業部員・劇場，テレビスタジオなどに照明設備をセールス
　　現　　業・配電盤やスポットライトの組立
　　一般事務
勤務場所　本社，東京，名古屋，大阪営業所，東京工場
待　　遇　初任給
　　高校46年卒・男35,500円
　　女34,800円

応募の詳細についてのお問い合せは、
東京都千代田区神田須田町1－24
丸茂電機株式会社 総務部 人事部
片　岡

舞台照明についての御相談は下記の専門店でどうぞ
照明の専門家が、丁寧に御説明致します。

東京営業所　東京都千代田区神田須田町1～24
TEL (03) (253) 0321㈹
名古屋営業所　名古屋市中区栄4丁目1-1中日ビル
TEL (052) (261)1111 (425)
大阪営業所　大阪市北区神山町32
TEL (06) (312) 1913

北電力設備工事㈱　札幌市南2条西12丁目
TEL (0122) (24)3911
㈱京京舞台照明　東京都渋谷区千駄谷3-51-4
TEL (03) (404) 2611
若尾綜合舞台研究所　名古屋市中区栄4丁目9－26
TEL (052) (241)5652
福岡市民会館サービスセンター
福岡市天神5－1～23
TEL (092) (75) 6474

●取扱店

発　　行　丸茂電機株式会社
東京都千代田区神田須田町1－24
編集責任者　井上利彦
製　　作　出牛亘
デザイン・レイアウト
（不許・複製）